



## 5Gの実現に向けた5G時代のスマートフォンユーザー動向に関する 第2回日本・台湾合同ワークショップの開催概要について

一般社団法人電波産業会  
第5世代モバイル推進フォーラム

### 1. はじめに

台湾における標準化推進団体である情報通信産業標準協会（Taiwan Association of Information and Communication Standards: TAICS）及び一般社団法人電波産業会（Association of Radio Industries and Businesses: ARIB）は、2016年7月に包括的な協力覚書を締結した。ARIBが事務局を務める第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF：吉田進会長/京都大学 名誉教授）において、一般ユーザーを対象としたスマートフォンの利用動向に関する定点観測を行うとともに、5G等の新サービスに対する利用意向等の調査を2016年から行っている。また、2017年にはTAICSの協力により、台湾においてもユーザー利用調査を開始した。台湾での調査において、ユーザーの先進的な利用が明らかとなった。今後とも継続して台湾及び日本におけるスマートフォンユーザーの動向を調査することにより、5G導入に向けての潜在的なニーズに関する情報を得ることが期待されている。

このような中、2017年10月にARIB/TAICS共同主催、5GMFの企画協力を得て、第5世代移動通信システム（5G）に関するサービス・アプリケーションの検討促進を目的に、台北市（台湾）において、一般ユーザー、通信事業者、機器ベンダー、コンテンツ事業者等を聴講の対象とし、日本側から、総務省、5GMFの専門家等が参加する合同ワークショップを開催し、多くの参加者を得ることができた。今回、2018年5月に東京ビッグサイトにおいて開催されたワイヤレステクノロジーパーク（Wireless Technology Park: WTP）において、第2回日台合同ワークショップを開催したので概要を報告する。

本稿は、総務省、5GMF関係者等の協力を得て、事務局を務めたARIB及び企画協力した5GMFが報告する。

### 2. ワークショップの概要

2018年5月24日、東京ビッグサイトのWTP展示場内のセッション用会場において、「5G時代のスマートフォンユーザー動向に関する第2回日本・台湾合同ワークショップ（The 2nd Japan-Taiwan 5G Workshop on Service and Application towards the 5G realization）」が開催され、一般の参加者を含め約120名の参加があった。

開会に当たり、ARIB森山理事から、ユーザー動向調査におけるTAICSの協力に対する感謝と、動向調査により日本と台湾間の新たな違いや共通点が浮き彫りになり、5Gサービスの検討に貴重なデータベースを構築できている状況に言及し、大規模な5G商用化に向けた関係者の更なる協力に関する挨拶があった。

セッションでは、まず台湾側のパート、続いて日本側のパートが行われ、2会場にまたがり参加者が集まり、熱心な聴講が行われた。

#### 2.1 台湾によるセッション1「台湾の5Gに向けた取組み」

台湾経済部の許氏より、5Gの割当てに向けた周波数の検討状況、期待される5Gサービス、今後の5G実証試験のスケジュール等に関する台湾政府の取組みの紹介があった。

工業技術研究院（ITRI）の陳氏より、5G時代の台湾のモバイルビジネスの考察の紹介があり、様々な分野での5G利活用の見通しや新たなビジネスモデルに関するトピックスの



■写真1. 開会挨拶をする  
ARIB 森山理事



■写真2. 総務省  
中川 課長補佐



■写真3. 閉会挨拶をする  
TAICS 呂 団長



■写真4. ワークショップの様様

説明があった。

台湾のオペレータである中華電信の姚氏より、主に4Gは既に高い普及率で月額料金制、5G実現に向けたパイロットプロジェクトの概要の紹介があり、5G実証試験のスケジュールや国際連携への期待の表明があった。

アプリケーションを提供するソフトウェア開発の立場から、Kdan Mobileの蘇氏より、5G時代の台湾のクラウドやAR/VRに関するイノベーションの状況やIoTを含むスマートフォンアプリケーションの展望の紹介があり、中国市場も視野に入れた新たなアプリケーションの開発へ取組みが示された。

続いて、質疑応答の時間があり、総務省から「日本の中でよく話の出る、包括的な質問になるが、4Gと5Gで最も違いが際立つアプリケーションは何だと思うか？ 総務省で違いを語っていく必要があるため、意見を伺いたい。」との質問に対し、中華電信から、「5Gについて最初は速いだけと考えていたが、その後研究を進め、認識が変わった。『通信キャリアの5Gへの取組み』の中でも述べたが、企業の顧客にARを使った5Gサービスを提供することで、新たな価値が生まれると考えている。エンドユーザにとっては、もしかしたら大きな違いは見えないかもしれないが、5Gを使用することで、故障対応時に人を送らず、AR技術を使って対応する等、B2B2Xの対企業の部分に大きな違いがあり、新たな価値を生むと考えている。」との回答があった。

## 2.2 日本によるセッション2「日本の5G実現に向けた取組み」

総務省の中川課長補佐より、5G早期実現に向けた背景、5Gの基本コンセプト、総務省による5G総合実証試験、5G用周波数の国際協調など、総務省による取組みの概要が紹介された。

(株) インフォシティの岩浪氏より、5GMFの活動の概要と

4Gから5Gにおけるアプリケーションの変化の考察、人間と機器の間の関係等の変化に伴う新たなアプリケーション開発に対する取組み等の紹介があった。

日本電信電話（株）の角氏より、5G実現に向けた実証試験について、超高速、超低遅延、多数接続の3つの機能を中心に、パートナーとの取組みなどの紹介があり、また新たなパートナーとの関係構築の仕組みなどの説明があった。

セコム（株）の田中氏より、施設警備、イベント警備等の効率化、品質向上に向けた5Gによって実現されるサービスやアプリケーションについての取組みなどの紹介があり、通信事業者との共創による新たなビジネスモデルや同社の技術と組み合わせた新たなサービスへの展望について説明があった。

## 2.3 ユーザー動向調査による日本・台湾の比較

セッション2において、ユーザー動向調査を担当したアイデア・フロント（株）の内田氏より、動向調査の結果の分析、日本と台湾のモバイル利用動向の差異などの考察が次のとおり紹介された。調査は、日台それぞれにおいて、Webアンケート及びグループインタビューにより行われた。

### (1) 利用中の端末や回線の種類

日本では、AndroidとiPhoneのシェアが拮抗しているが、台湾ユーザーは8割近くがAndroidスマホを利用している状況。台湾では、フリー Wi-Fi、職場・学校Wi-Fiの利用率が日本よりも高い状況。

### (2) スマートフォンを人に例えると

日本ではスマホを「友人」に例える人が多いが、台湾では「秘書」や「執事」に例える人が多い状況。社会・文化的な背景が考えられ興味深い結果となった。

### (3) 生活行動のモバイル移行の状況

音楽・動画のモバイル利用では、台湾が先行。PCにおける仕事やオンラインショッピングの利用は日本が多くなっている状況。特に、日本では仕事においてPCの利用が多く、モバイル利用が進んでいない実態が明らかになった。

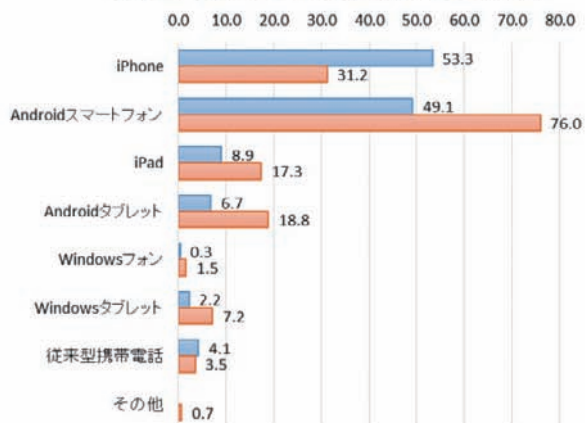
### (4) モバイル端末と接続している機器の状況

台湾では、AV機器やスマートウォッチをモバイル端末と無線接続して利用している人が2割近くいるが、日本でのこれらの利用は低く有線接続の状況が明らかになった。

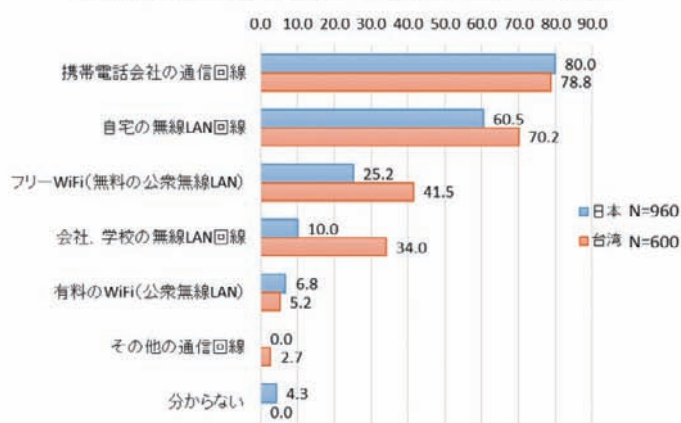
セッションの最後に台湾代表団の呂団長から、登壇者と共催のARIBに感謝の表明があり、さらに東京オリンピックの開催が迫っており、政府・産業界の協力が成功をもたらすと信じており、台湾と日本との協力も合わせて深化させていきたいとの閉会挨拶があった。



F1. 現在ご利用のモバイル通信端末は、次のどれですか。複数ご利用の方は、当てはまるものをすべてお答えください。(複数選択可)

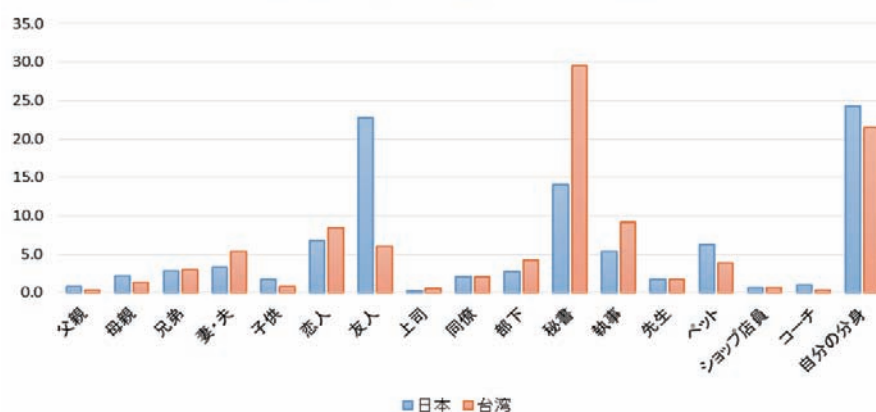


F2. あなたは、スマートフォンやタブレット端末を、どのような通信回線で利用していますか。普段利用しているものをすべてお答えください。(複数選択可)



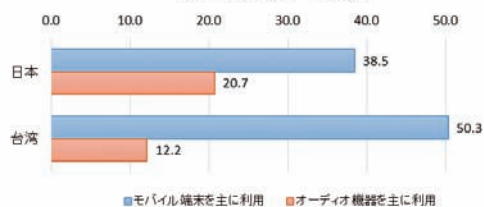
■ 図1. 利用端末・回線の状況

Q1-5. ご利用のスマートフォンを「人」にたとえたら、あなたにとって次のどれに近いと思いますか。ひとつだけ選んでください。(1つ選択)

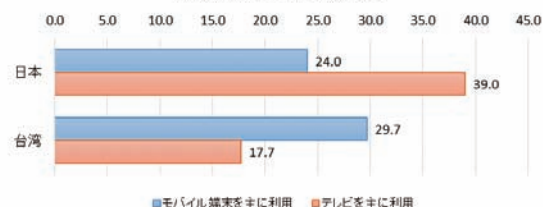


■ 図2. スマートフォンを人に例えると

Q1-3-1. 音楽を聴く【オーディオ機器】



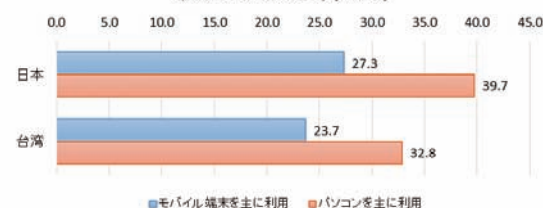
Q1-3-2. 動画コンテンツを見る【テレビ】



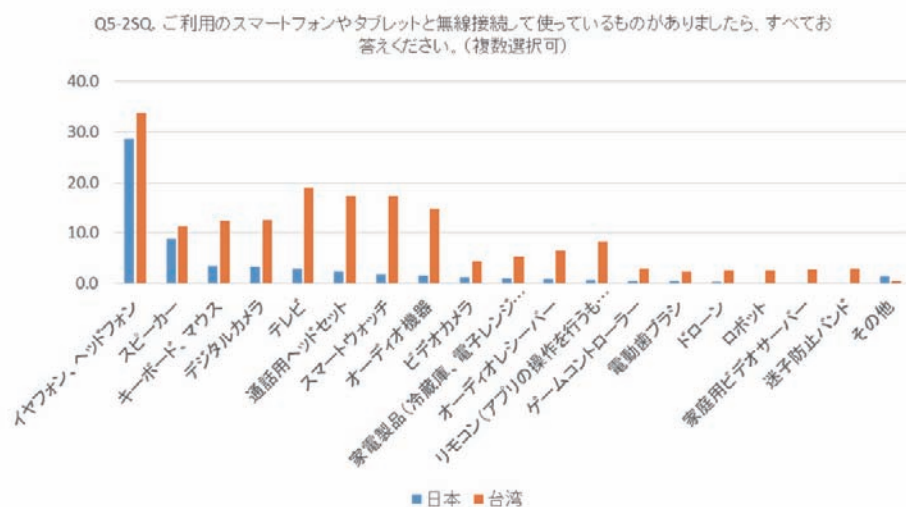
Q1-3-7. 仕事をする【パソコン】



Q1-3-8. オンラインショッピング【パソコン】



■ 図3. 生活行動のモバイル移行の状況



■図4. モバイル端末と接続している機器の状況



■図5. 第5世代移動通信の認知度

### 3. おわりに

5GMF及びARIBでは、TAICSとの連携のもと、5G導入に向けてのサービス・アプリケーションに関する先進的な情報を入手するため、台湾におけるユーザーの動向調査を継続し新たな知見を得るとともに、TAICSとの意見交換を継続していく予定である。

日本におけるユーザー動向調査では、「第5世代移動通信

システム (5G)」の言葉を知っているか否かの認知度は、言葉自体を知らない人が6割を占めている状況であり、台湾よりもかなり高い状況である。引き続き、国内での5G推進活動のアピールが必要であると思われる。

引き続き、関係の皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。